

3) 診断

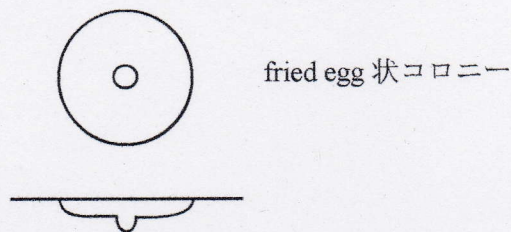
培養2週間以上.
← 診断には使われない.

a) *M. pneumoniae* の分離

胸膜

口腔咽頭ぬぐい液を PPLO (*Pleuropneumonia-like organisms*) 培地に塗抹

1~2 週間で colony 形成が見られる。



b) 免疫血清学的診断法 cold hemagglutination

① [寒冷赤血球凝集反応] (IgM)

非特異的であるが、補助診断としての価値は大きい。

患者数の約半数が陽性となる。

64 倍以上の抗体価を陽性とする。

[赤血球凝集反応；自己免疫性溶血]

クームス試験 (Coombs' test) は抗赤血球自己抗体を検出する目的で考案された。

直接試験は患者赤血球を用いて直接調べるもの、間接試験はヒト O 型赤血球を用いる。

自己抗体のタイプは IgM と IgG があるが、IgM は低温 (30 °C 以下) で赤血球凝集を起こすため、冷式抗体と呼び、IgG を温式抗体と呼ぶ。抗体は IgM → IgG の順で産生される。

② 特異的 IgM 抗体検出キット 今(=①+②)

このキットの使用により寒冷赤血球凝集反応は使われなくなりつつある。簡便であるが、感染後、半年以上経っても抗体価が保持されるため、判定には注意を要する。

c) レントゲンおよび CT 像

気管支に沿った陰影 → [気管支気像 または 気管支透亮像] (air bronchogram)

肺炎はレントゲン所見から大葉性肺炎、気管支肺炎 (小葉性肺炎)、間質性肺炎に大別される。
スライダス像

d) PCR

4) 治療

macrolide 系 (耐性菌が増加しつつある)、tetracycline 系 (minocycline)、new quinolone 系

↳ 承認されていない。